



トゥン・フセイン・オン・マレーシア大学にて 国際パートナーシップ教育プログラムを開催

【概要】

理工学部は、2025年11月3日から7日にかけて、マレーシアのトゥン・フセイン・オン・マレーシア大学（UTHM）にて国際パートナーシップ教育プログラムを実施しました。本プログラムには、都市工学分野の大学院生6名と教員2名が参加し、共同開催された国際シンポジウムでの学術講義の受講に加えて、沿岸地域の現地視察を通じ、マレーシアにおける低平地環境やインフラ整備に関する課題について理解を深めました。また、事前の表敬訪問では、教育・研究交流のさらなる発展に向けた意見交換が行われ、今後の協力関係強化につながる有意義な機会となりました。

【本文】

理工学部は、2025年11月3日から7日にかけて、マレーシアのトゥン・フセイン・オン・マレーシア大学（Universiti Tun Hussein Onn Malaysia : UTHM）において国際パートナーシップ教育プログラムを実施しました。本プログラムには、都市工学分野の大学院生6名（博士後期課程2名、博士前期課程4名）に加え、モハマド・ニザム・ビン・ザカリア准教授と三島悠一郎准教授が参加しました。研修は、UTHMと佐賀大学の共同開催による国際シンポジウムと、沿岸地域の現場見学による実地学習で構成され、学生が両地域における研究課題や社会的背景を理解するうえで大変有意義な機会となりました。

まず、11月4日から6日に「International Symposium on Innovation in Civil Engineering & Built Environment UTHM & Saga University」が開催されました。土木工学と環境工学の分野から計15の講義が提供され、参加学生はマレーシアと日本における研究ニーズや都市環境の課題、低平地のインフラ整備のあり方など、多様なテーマに触れました。UTHMが位置するParit Raja周辺は、典型的な低平地で軟弱地盤が広がり、パームプランテーションが一面に広がる地域特性を持っています。そのような環境を背景とした講義は、学生に東南アジアの土木工学が抱える現実的かつ切実な課題を学ぶ機会となりました。

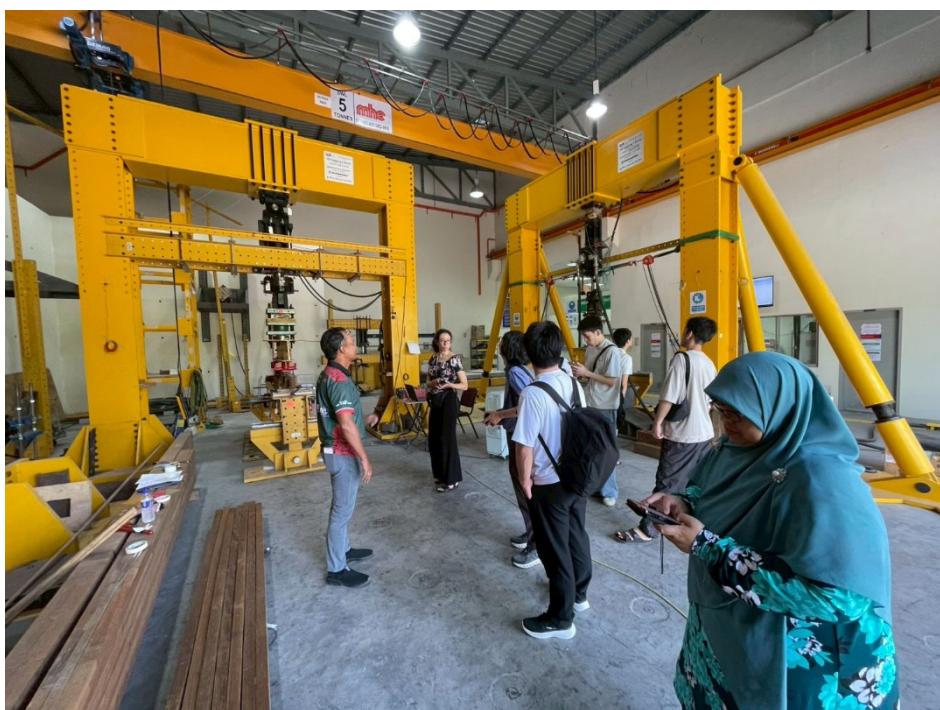
その後、最終日の7日には、沿岸地域の現地視察を行いました。視察先では、海岸堤防の構造や維持管理の現状を確認しましたが、堤防は日本のように高く整備されておらず、越水のリスクが高いことが分かりました。学生にとっては、講義で得た知識を現場の状況と結びつけ、両国の沿岸防災の違いを理解する実践的な学びの場となりました。

訪問に際しては、上記のプログラムに加え、佐賀大学一行はUTHM土木工学部を表敬訪問し、学部長のProf. Dr. Mohd Haziman Wan Ibrahimをはじめ、同学部の代表者と懇談しました。懇談では、学術交流による両大学の発展に向けて、学生・教員の交流促進や、サンドイッチプログラムを含む教育プログラムの展開について意見交換を行い、今後の協力関係をさらに強化する方針を共有しました。

今回の国際パートナーシップ教育プログラムは、両大学が積み重ねてきた交流を基盤として実現したものであり、学生にとって国際的な視野と実践的な知識を獲得する機会を提供しました。今後も理工学部は、海外大学との連携を通じて、学生の教育機会を広げ、国際的な学術ネットワークのさらなる発展を目指してまいります。



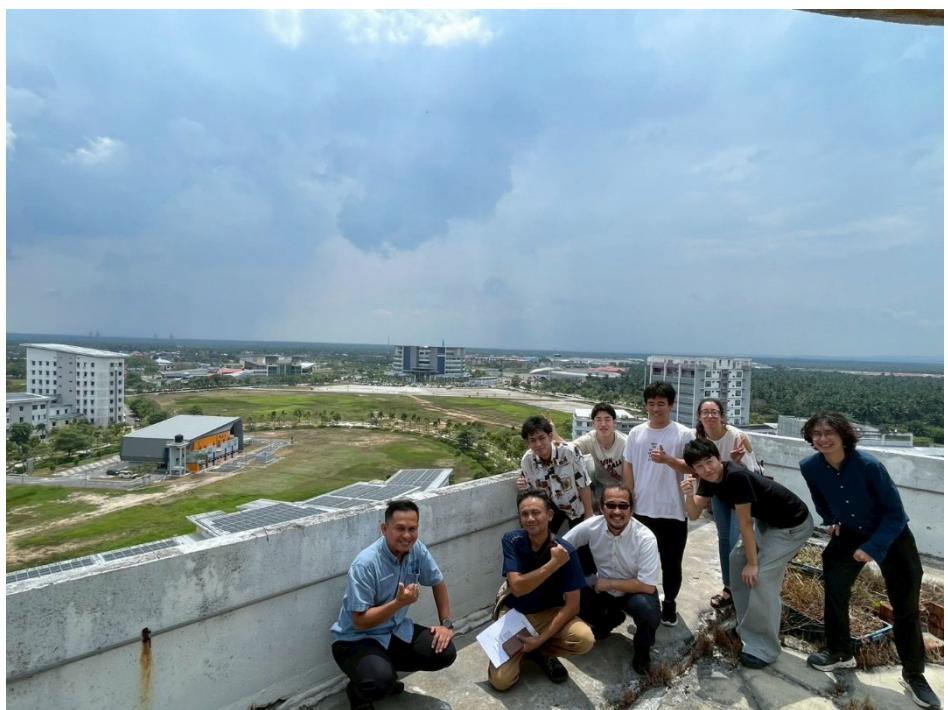
開会の様子



研究室訪問



土木工学部表敬訪問の集合写真



建物屋上からの望む低平地